

「10の姿」と「3つの柱」「非認知能力・認知能力」について考えてみよう！竜ヶ崎幼稚園が大切にしていることはまさにこれ！

「毎日に夢中」なとき、「非認知能力」が育まれている！子どもが輝いている！

2018年4月、文部科学省は、幼稚園と保育園、認定こども園の教育保育の目指すところを定めた「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（「幼保3法令」）を、同時に改訂しました。

日本における3才未満の子どもの就園率は、大幅に増加しています。これに伴って、幼児施設の重要性がいよいよ増していることから、幼稚園と保育園、認定こども園がいずれも『豊かな環境で安心・安全に育ち、小学校入学以降につながる質の高い教育が受けられる幼児教育施設』となるために、幼保3法令が同時に改訂されました。

今回の改定で、3つの施設すべてが『幼児教育機関』に位置づけられ、目指す目標も同じになりました。

その共通の目標が、幼児期の終わりまでに育ってほしい『10の姿』です。

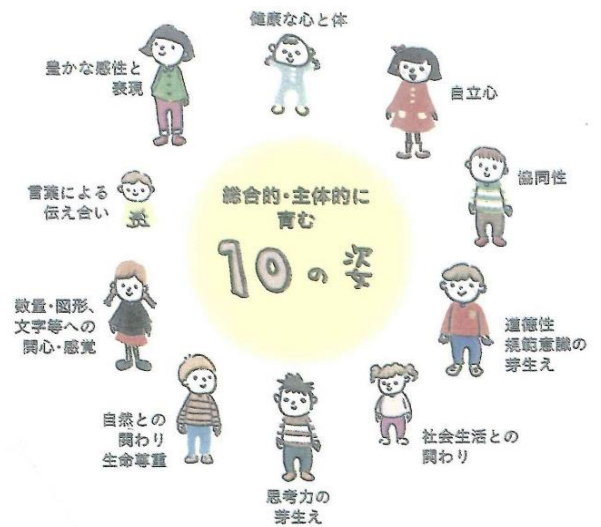
*ただし、幼児教育といっても、読み書きや計算などを早いうちから教えるという意味ではありません。

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

*なお、これらをすべて入学までに達成しなければならないという意味ではありません。

- 健康な心と体
- 自立心
- 協同性
- 道徳性・規範意識の芽生え
- 社会生活との関わり
- 思考力の芽生え
- 自然との関わり・生命尊重
- 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- 言葉による伝え合い
- 豊かな感性と表現

…5才児の後半（小学校の入学前までに育みたい姿を10の項目として具体的に整理したもので、幼稚園、保育所、認定こども園共通の指針です。

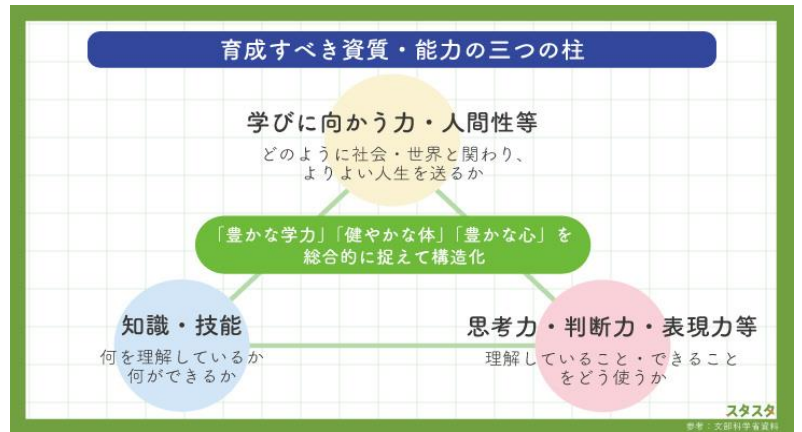


◎子どもたちの活動に込められている「総合的・主体的に育む10の姿」を知っていただくために、園からのお便りに「10の姿」のアイコンを貼りつけます。子どもたちの園生活の大切さを、お家の皆さんもぜひ共有してくださいね。

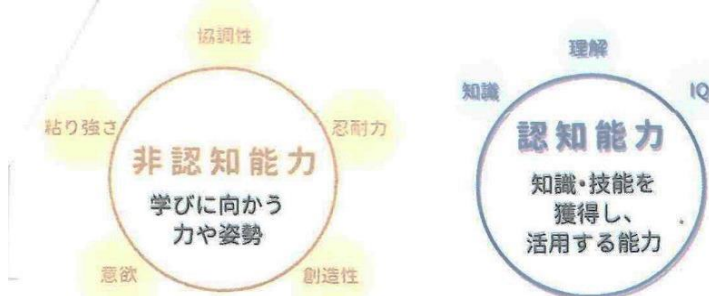
小学校以降との「学びのつながり」：「3つの柱」と「非認知能力・認知能力」

幼児教育と小学校教育双方で育てるべき内容を「資質・能力」で一貫させます

- 【学びに向かう力、人間性等】…さまざまなことに意欲を持って粘り強く取り組み、目標に向かって努力できる力や、思いやりや安定した心を持つ。
- 【知識・技能】…豊かな体験を通して、感じたり、気づいたり、わかったり、できるようになったりする。
- 【思考力・判断力・表現力等】…気づいたことやできるようにしたことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり表現したりする。



幼児教育は「非認知能力」に取り組み、小学校教育以降は「認知能力」に取り組みます



「非認知能力」とは、自ら興味・関心や意欲を保ちながら、周囲との関わりの中で、粘り強く物事に取り組む力のことです。認知能力が、いわゆる知識や読み書きといった「学力」に相当するのに対し、認知能力は「学びに向かう姿勢」であるといえます。生涯にわたって、その人らしく豊かな人生を歩むためには、認知能力と非認知能力をバランスよく育むことが大切であると、多くの研究結果が示しています。（監修：汐見稔幸）